



かもめミライ水産

エンジニアリング企業が挑戦する サバの陸上養殖

2026年3月17日

かもめミライ水産(株) 代表取締役
大澤 公伸

- 発表で使用される画像データの著作権は日揮グループに帰属します。当社の事前の承諾なく、データの保存、画面の撮影、録画等を行うことができません。
- 本資料の複製・転載・改変・再配布を禁止します。

- 設立 : 2021年8月30日
- 本社所在地 : 福島県浪江町
- 主要株主 : 日揮株式会社 / いわき魚類株式会社
- 事業内容 : 完全閉鎖式陸上養殖設備による水産物の生産・加工・販売



エネルギー・化学分野

- 石油化学／ガス化学／化学
- LNG(液化天然ガス)
- CCS
- 水素・燃料アンモニア
- 火力／原子力／再生可能エネルギー



Yamal LNGプロジェクト



ニッケル精錬プラント（フィリピン）

医薬・環境・インフラ分野

- 医薬品／研究所(ヘルスケア)
- 一般産業
- 環境
- 医療福祉



熊谷総合病院



医薬品製造工場

事業運営・投資

- 病院建設／運営(ライフサイエンス)
- 次世代航空燃料／ケミカルリサイクル
- 都市／インフラ開発
- 鉄道／空港
- アグリカルチャー
- ニュービジネス／CVC



カンボジア病院経営

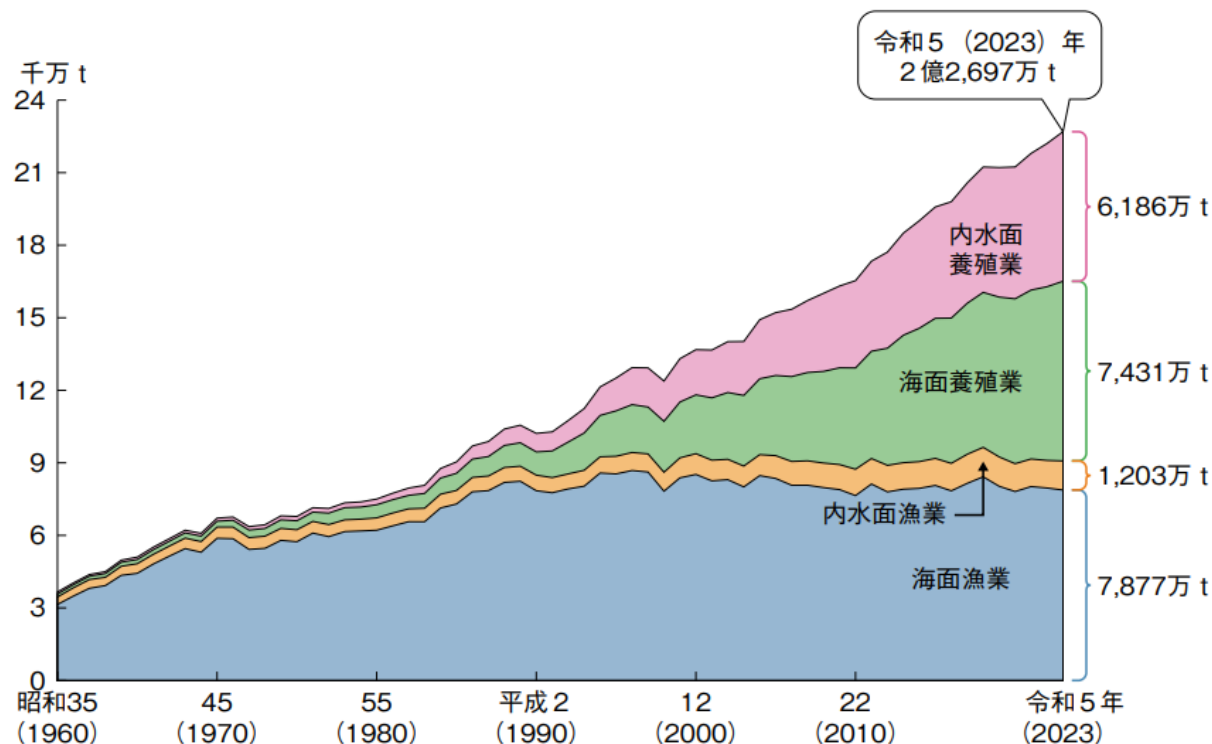


JGC Evergreen

※ハイライト事業は日揮株式会社事業領域

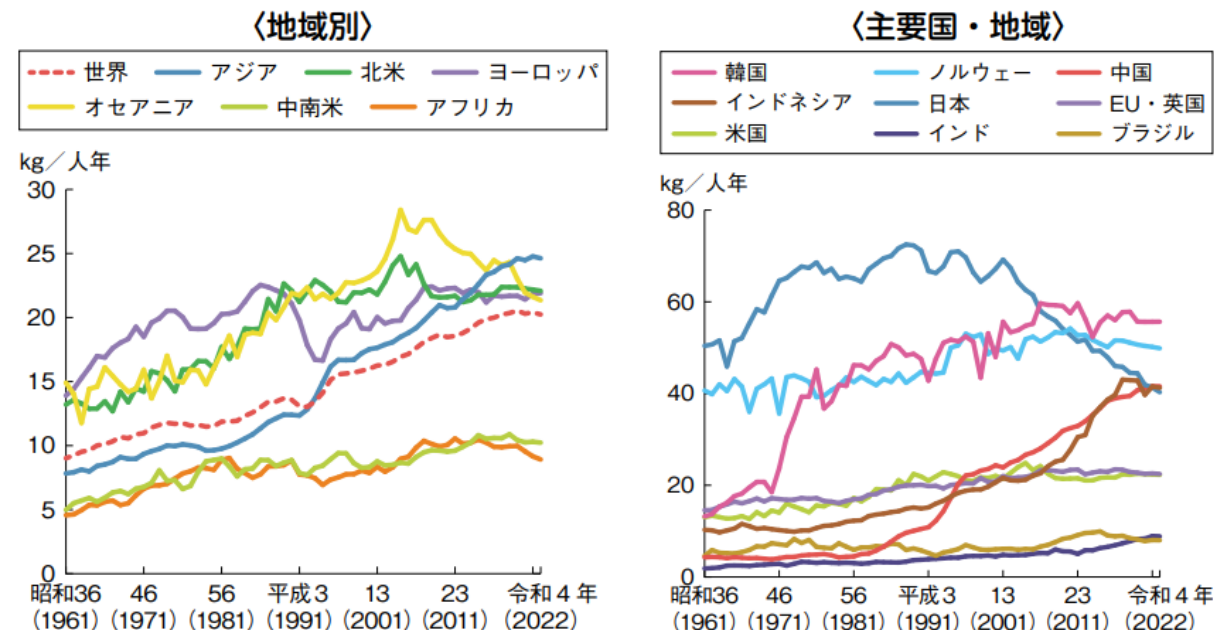
- ・グローバルでは養殖業は成長産業
- ・世界の魚介類の消費量は増加する一方、日本の消費量は減少傾向で推移。

世界の漁業・養殖業生産量の推移



資料：FAO「Fishstat (Global capture production, Global aquaculture production)」(日本以外) 及び農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(日本) に基づき水産庁で作成

世界の1人1年当たり食用魚介類消費量の推移
(粗食料ベース)

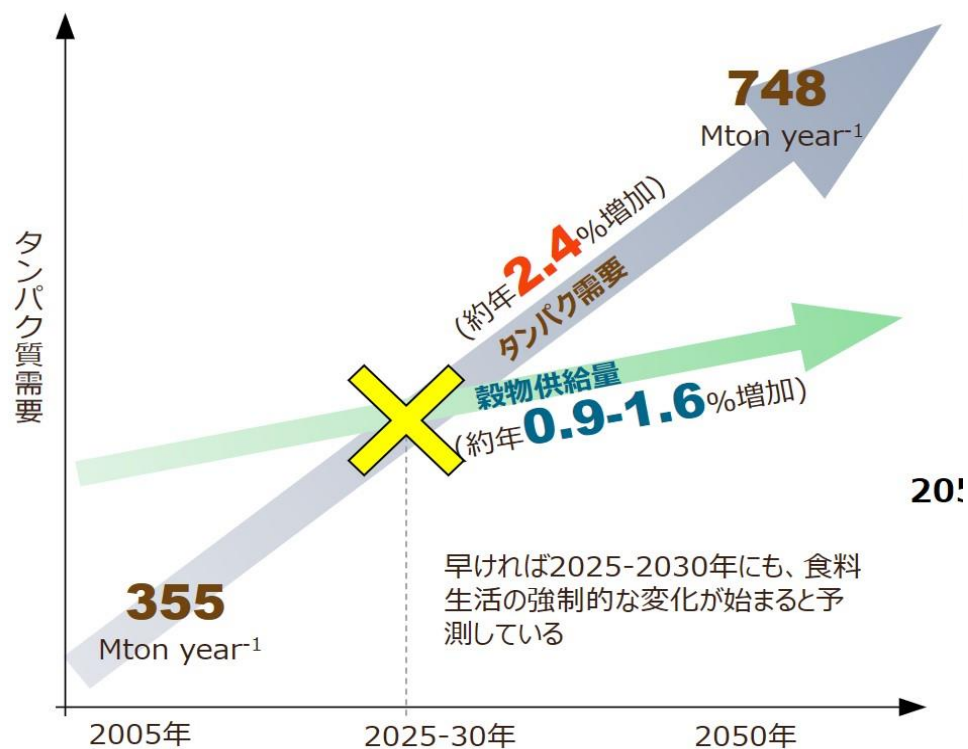


資料：FAO「FAOSTAT (Food Balance Sheets)」(日本以外) 及び農林水産省「食料需給表」(日本) に基づき水産庁で作成

- 注：1) 粗食料とは、廃棄される部分も含んだ食用魚介類の数量。
2) 中南米は、カリブ海地域を含む。

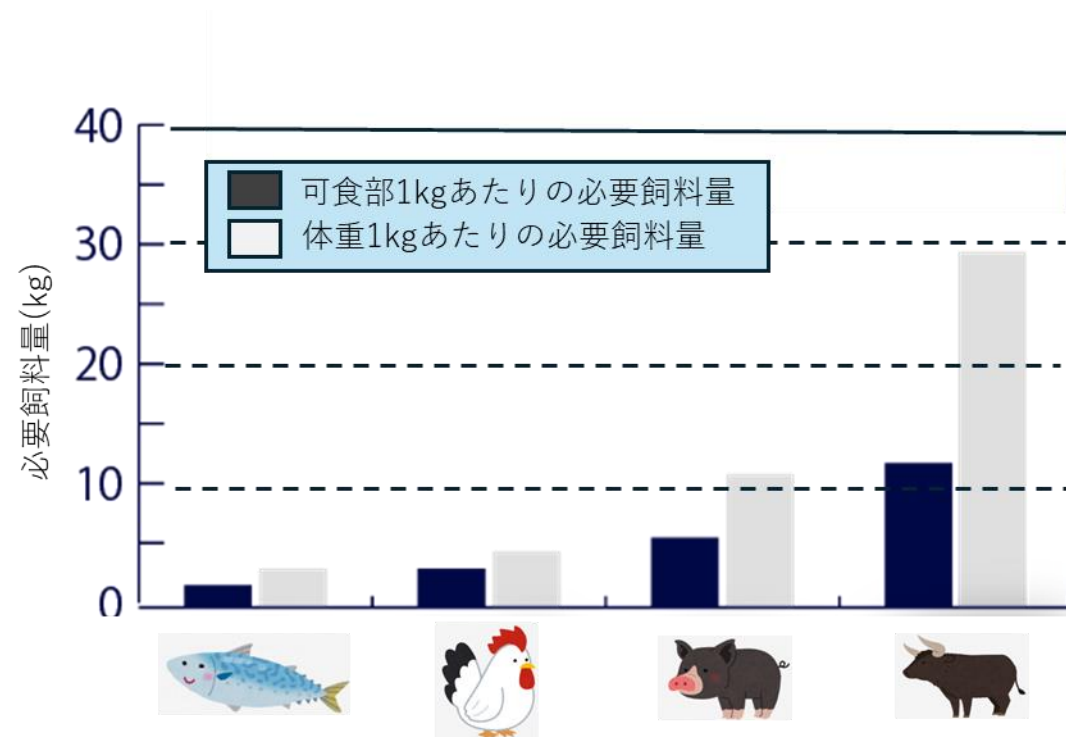
陸上養殖事業を通じて食糧問題の解決に貢献したい。

☆タンパク質危機の到来



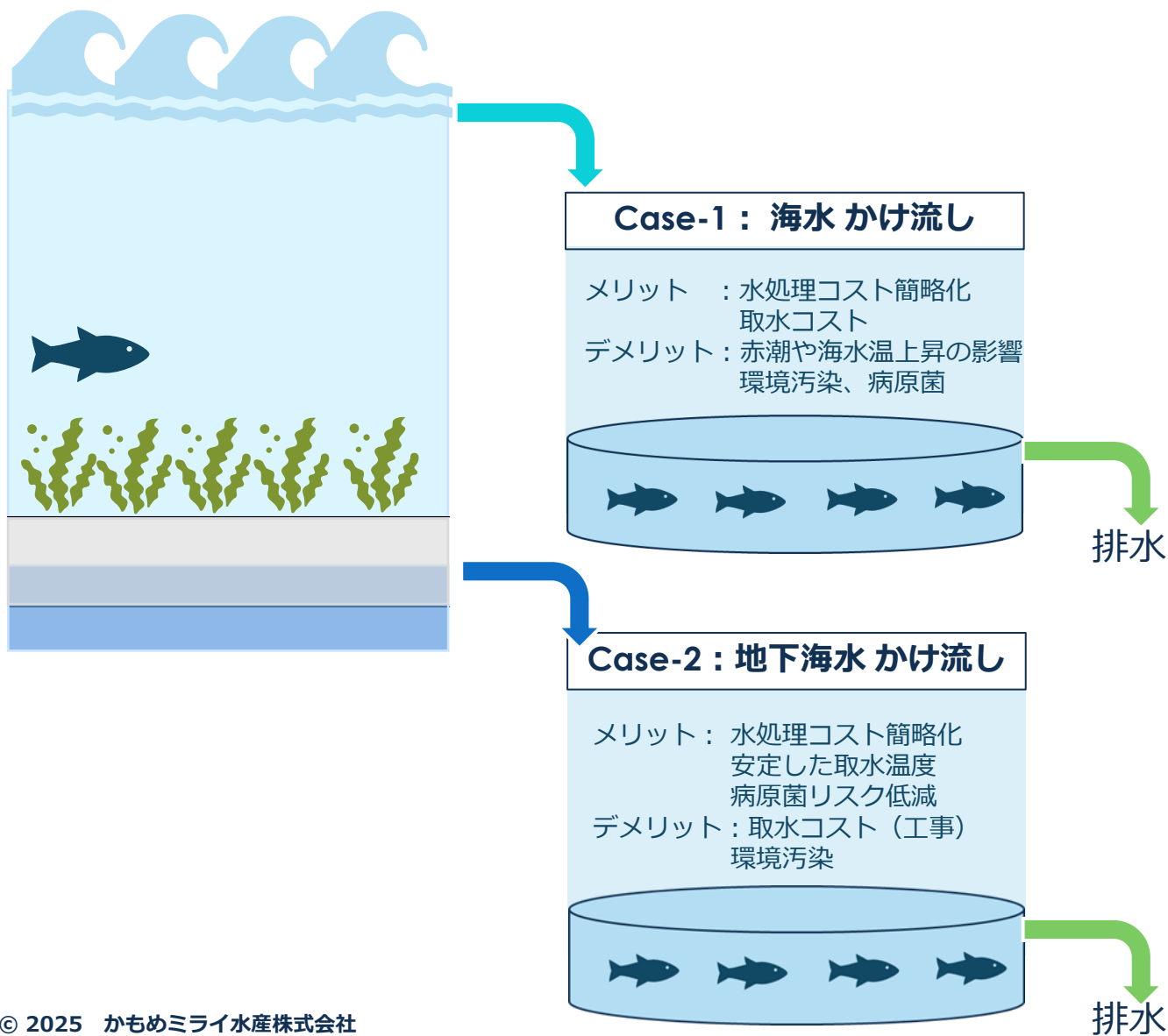
出展) <https://matsuri.chitose-bio.com/blogs/column/modia-40>

☆魚は飼料転換効率が良い



出展) <https://openknowledge.fao.org/server/api/core/bitstreams/c7851ad8-1b4b-4917-b1a1-104f07ab830d/content> ほか

はじめに ; かけ流し方式と完全閉鎖循環式の違い

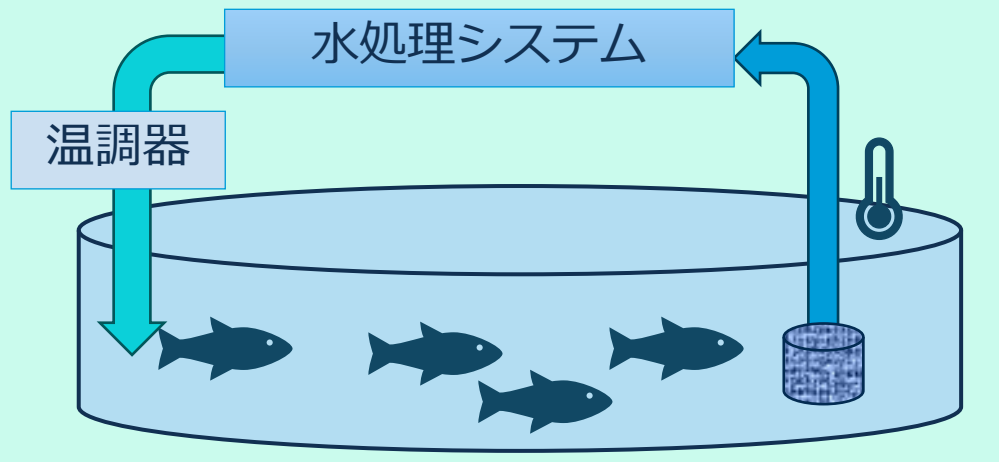


 浪江町の水道水を原水として、人工海水をつかって飼育しています

Case-3 : 完全閉鎖循環式 (C-RAS)

メリット : アニサキスのリスク低減
環境制御、安定飼育
場所の制約が少ない

デメリット : 設備コスト
運転コスト (特に電気代)



The diagram shows a circular tank with fish. A blue arrow labeled '水処理システム' (Water treatment system) points into the tank. A green arrow labeled '温調器' (Temperature controller) points into the tank. A thermometer is shown in the tank.

【課題】

1. **生産リスク**が高い : 生産を経験と勘に頼っている
2. **生産コスト**が高い : 設備費、光熱費、餌代が高い
3. 市場が**未成熟** : 「寄生虫リスク減」「身質の制御」など「陸上養殖魚」の強みが市場に認知されていない



【解決策】

①システム開発

生産支援システム

- ・飼育環境を制御するシステムを開発
- ・新規参入企業の生産リスクを低減する

最適な飼育条件の把握

- ・飼育・環境条件をセンサー等で監視



②生産コストの低減

オペレーションや設計の最適化検討

- ・効率的な給餌方法の確立
- ・最適な設備計画
- ・安価な餌の開発や、種苗生産方法の確立

大学、研究機関、民間企業との連携



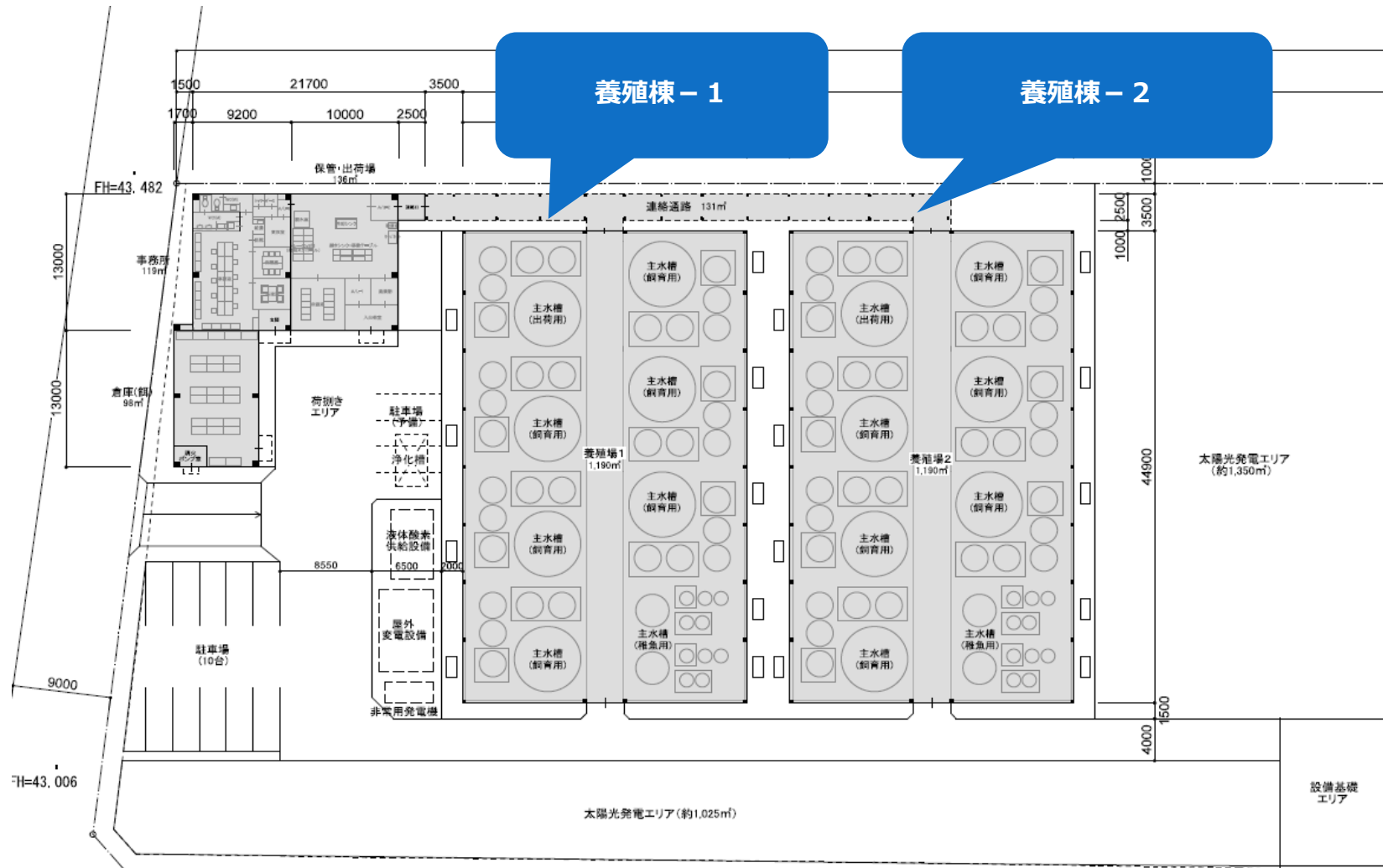
③マーケット開拓

陸上養殖魚の市場創造

- ・「福の鯖」でマーケティング
- ・お客様の要望を飼育へ反映

地域ブランド化





敷地面積

約7,800㎡

養殖棟1・2 合計

大型水槽 14システム

小型水槽 4システム



あらゆる飼育データを収集し、最適な生産モデルの構築

①スマートフォンとPCから、記録・管理・閲覧

➤ 稚魚の入水から出荷に至るまでの生体データを管理。また、養殖設備や水槽の状態も管理。

②IoTセンサーによるリアルタイムモニタリングを実現

➤ 消費電力量、水温、pHなどのデータを収集。



カメラ画像を使い魚の動きから健康状態を定量化

導入効果

- 経験や勘からの脱却
- 24時間監視と異常検知による先手対応

飼育員が飼育状態を目視判断



画像データで健康状態をモニタリング



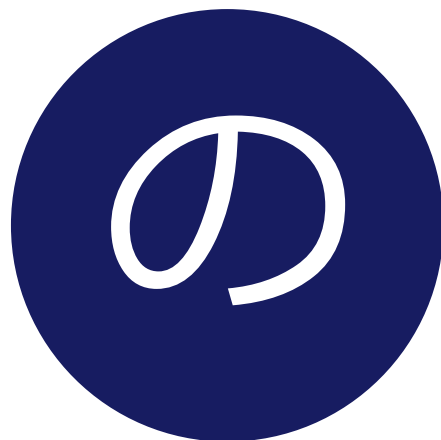


Innovate the Future of Fish

福の鯖



幸せ・豊かさ・
福島の水産業の象徴



つながり、
人々との絆



青魚の王様と呼ばれる
栄養豊富な食材

「福の鯖」は、福島県浪江町にある完全閉鎖循環式陸上養殖で育った鯖です。

AIなどのDX技術を活用する「統合環境制御システム」を導入し、陸上養殖イノベーションセンターで育てる福の鯖は、アニサキスなどの寄生虫の心配がとてま少なく、より安心して生食を楽しめます。

美味しさ、鮮度、安心にこだわり、「食のミライを創る」水産業の新たなカタチとして、日本中の食卓に「美味しさ」と「笑顔の福」をお届けします。

2022				2023				2024				2025			
1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月

建設工事（約10か月）

立上げ

1年目飼育（約10か月）

2年目飼育

5月 日揮HD
陸上養殖事業取り組みに
関する プレスリリース



10月
福島県浪江町
立地協定式



4月 事業説明会
地元で5名雇用



1月 地鎮祭



3月 着工（北産業団地）



1月 完工



4月 「福の鯖」 初出荷



■ 2025年4月に初出荷を達成 !!

- 「福の鯖」ブランドでアニサキスフリーの生食サバを提供



道の駅なみえでの出荷式

(1) 歩留まりの向上

- ・ 水処理機能の強化
- ・ 丈夫な稚魚の確保
- ・ 感染症など大量斃死時の対応

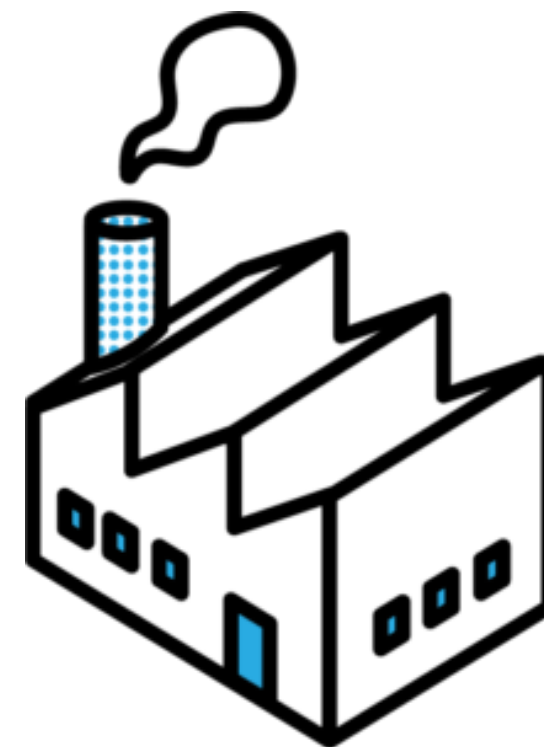
(2) 生産コストの低減

- ・ 電気代、飼料、塩etc.

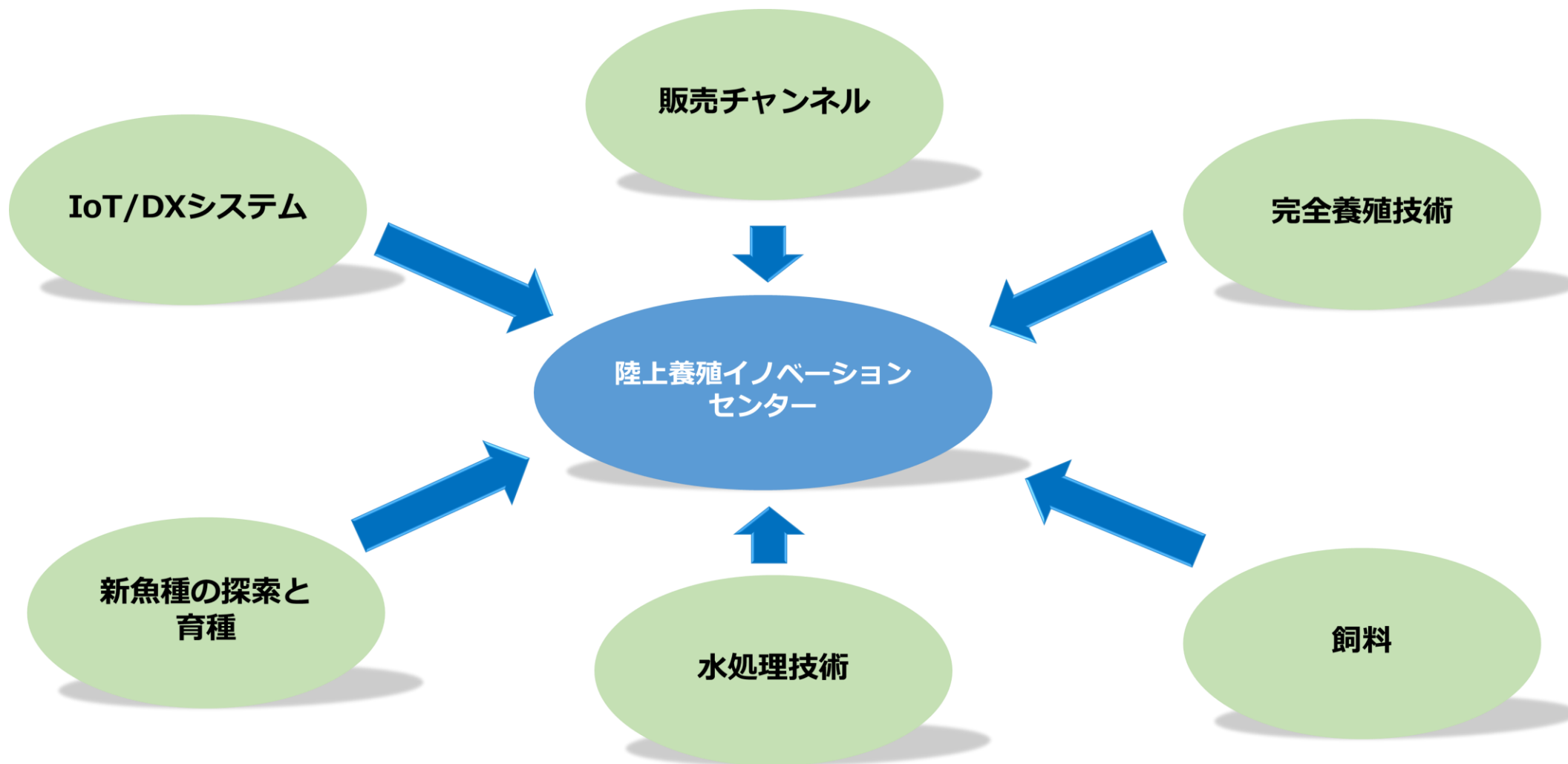
(3) サバの品質向上

- ・ 大きさ、身質、臭み（オフフレーバー）

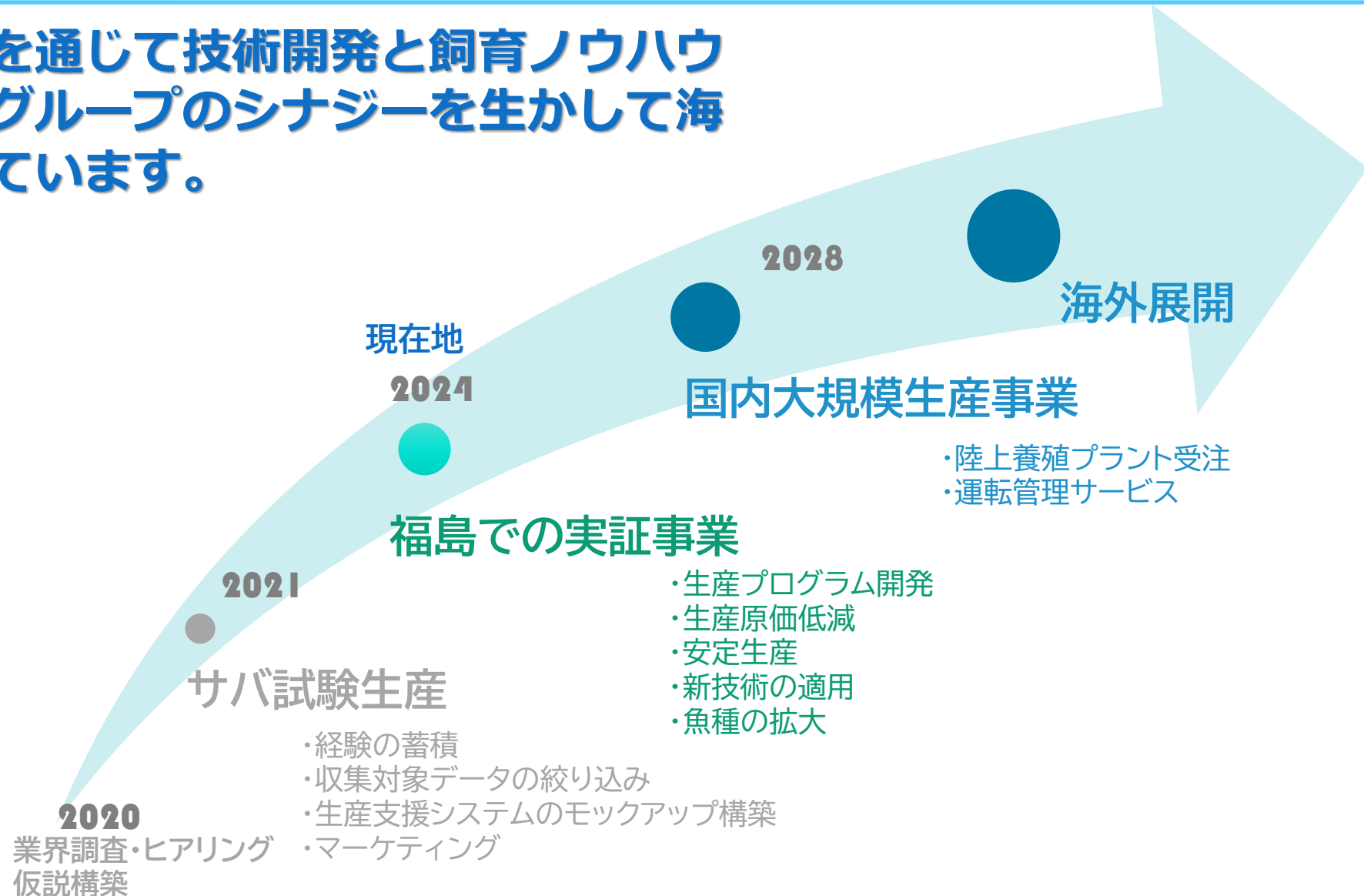
(4) 養殖施設内の腐食対策



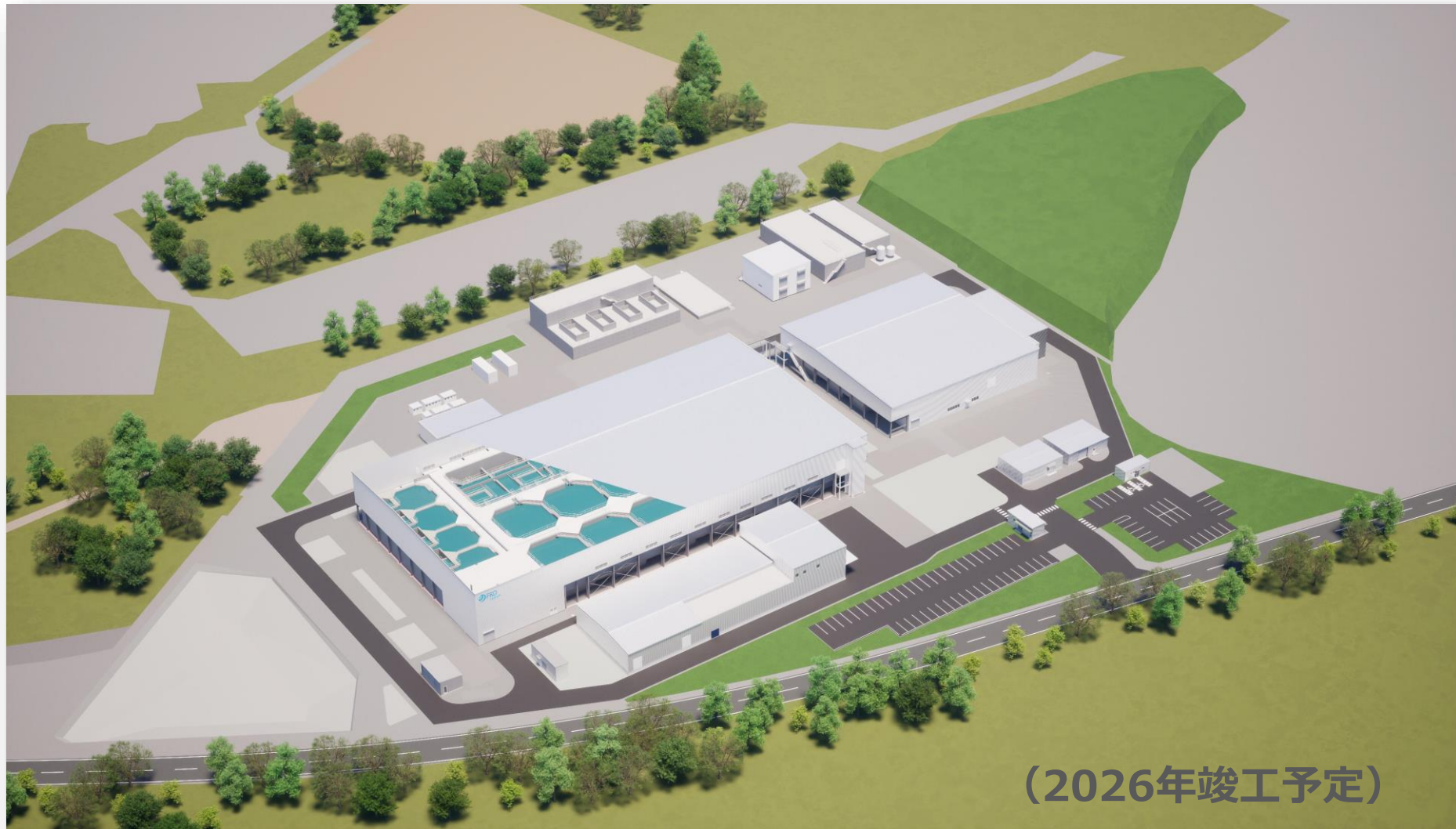
私たちはマサバの実証を切り口に、RASシステムのプラットフォームを目指します



サバの陸上養殖を通じて技術開発と飼育ノウハウを蓄積し、日揮グループのシナジーを生かして海外展開を目指しています。



大型陸上養殖プラントのEPC(設計・調達・建設)を遂行中



閉鎖循環式陸上養殖商業プラント(3500トン規模)

養殖業には課題が沢山

例えば、気候変動、海洋汚染、食中毒・・・

私たちは陸上養殖のプラットフォームとして

イノベーションを創造し、浪江町から世界に向けて

発信していきます